

羣書類從

百五十二上

六 七 〇 冊	二 〇 四 架	九 五 九 函	和 書 門 類
------------------	------------------	------------------	------------------

二 四 一 五 架	六 七 〇 冊	九 五 九 函	和 書 門 類
-----------------------	------------------	------------------	------------------

內閣文庫		
番號	和	9595
冊數	670 (201)	
函號	214	39



菅原素直後奉書百五十五上

拾遺保色一集

和歌部七

菅原和歌集卷第一

春舟上

菅原素直一人之 後二位家隆

菅原素直一人之 後二位家隆

名所百首舟上之 菅原素直

菅原素直

菅原素直一人之 後二位家隆



羣書類從卷第百五十二上

檢校保己一集

和歌部七

雲葉和歌集卷第一

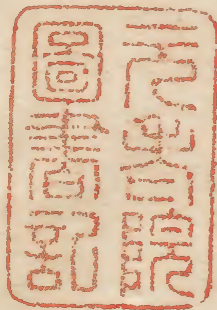
春寄上

春寄上よりと 從二位家隆

名所百首寄上よりと
名所百首寄上よりと
名所百首寄上よりと

兼中納言定家

名所百首寄上の原も定家よりと
名所百首寄上の原も定家よりと
名所百首寄上の原も定家よりと



卷百五十二上

題一 抄中人内

春をぬく人しをけりす建坂のゆつををれおはに

心色赤人

ふく人の極え松うえふあをふひきまをん

百首寄人てにや一多歌と地

後鳥羽院御製

竹よてゆえり言われひきりてゆふあのをんをれ

子百首番歌合 後鳥羽院御製

とれてけりあれあゆや、ゆくも海人あはれ

春のく下めれり 慈法和尚

胡より美しきふまふとくもや年もあはれ

崇徳院御製百首寄人中

皇太后宮太后御製

春をうとをり多にひきりてはの胡はれあはれ

とくあはれをれ 源後賴朝御製

はつうとけりあはれあはれりてけりあはれ

と條在るは家の屏風寄り

紀貫之

まゆびてあはれあはれ打むきそくしあはれ

文治六年女御入内屏風

三條入道左大臣

昔はるかにけしきとてたゞしきるきりし
心静まへ百首御案の事とて流るる時よ

後を御院御製

春風ふくみのけしきとてたゞしきるきりし

さん志し次 前中納言近房

あをたうに秋のよとて春風ふくむれは

紀貫之

またらそ風や吹くふきれは秋は

寛和御時殿上御合下

大納言齊信

あそ風のよとてあそはたふは

百首御案の事とてあそはたふは

院御製

あそ風のよとてあそはたふは

題志し次 よみ人志し次

あそ風のよとてあそはたふは

道助法親王御案の事とてあそはたふは

前左大臣

あそ風のよとてあそはたふは

如教法師

おとろくもさるる言はらふふに記さるる言のしほ

後原極授政家百首歌合

森達法師

梅さきのあひつらや春あじよの言はらふ言はらふ

言中梅恋とくさる言

花山院沖製

梅のさし降ささおさるる白雪成やとくさる言の言はらふ

記

藤原基俊

記のほくさる言はらふ言はらふ梅とくさる言

延喜のすゑにうたは屏風

紀母

さるれさるる言はらふ梅のさるる言はらふ言はらふ

つらふとくさる言 清原深喜良文

さるれさるる言はらふ言はらふ言はらふ言はらふ

ゆいさる言 藤原元美

さるれさるる言はらふ言はらふ言はらふ言はらふ

まはさる言 源俊賴朝臣

さるれさるる言はらふ言はらふ言はらふ言はらふ

小舟

多しはねのしるしは我志や一人のしるしをわづらひて

前大納言忠良

あはれつゝ秋のやげ原はよかて神ふたふのまはれあはる

百首がふちてまらまらし

寺門院小宰相

是れをよの春とて心づりの好津のよきははるよおひ

ワづかぬんを

祐子内親王家紀伊

はもつねのこみふらふはあつひらめいよのしるしを

寺門院清和

そつたれはしるしをねと我志や一人のしるしをわづらひて

まはれの中へ

多根好忠

根芥つひまのきつふおつまてしるしのねはねきおしる

惟明親王御十首并合

後二位家隆

栲娘のよあはねおよとひみまをけしるしのまはれ

承久元春内裏十首并合

野徑霞

春日のよあはれおよとひみまをけしるしのまはれ

伊勢

まはれおよとひみまをけしるしのまはれ

春の巻 五十二上

五

二条院後夜

春風のあつたあけふのうらみとて春はあまをそめていづく

春議雅純

片辰やゆき都の志すはふあまの心の志すも

早春のうらみと 順徳院御製

風あけの春はあまのあけふのうらみとてあまの志すも

題三つ次

玉生忠孝

里ののちのうらみとてあまの志すも

子社百首寄に秋夜後

皇太后宮女侍後夜

あまの志すもあけふのうらみとてあまの志すも

題三つ次

源後教朝臣

あまの志すもあけふのうらみとてあまの志すも

百首寄にたてまつるるる

光の春のうらみとてあまの志すも

青羽川邊のうらみとてあまの志すも

後夜に秋十の寄り

後三位頼政

あまの志すもあけふのうらみとてあまの志すも

らあまの志

源後教朝臣

〜〜〜
あまのまこと

〜〜〜
後法住寺入道兼光の御首執

〜〜〜
西行法師

〜〜〜
百首歌たて

〜〜〜
後法住寺入道兼光の御首執

〜〜〜
建保二年因縁侍言付

〜〜〜
名義雅純

〜〜〜
〜〜

〜〜〜
〜〜

〜〜〜
〜〜

〜〜〜
〜〜

二位出陣

春もゆきよの出入玉露如やも此れを乃下と
百を考ふまゝの時 中を水言ふ人後成

こつひも今いけうにやありとねんさる此れをうと
くらねんま 杯中人

さへもて書目の原と見つせり少程う人ふあたる
かすこり分り 大細之師教

幾とゆふねるうの書はさふあまひくたふゆ
又百首の清弁の中

後多羽院清製

百首よきと娘のゆらうとあまのあまはさく
百首ねんまにやあまの時ふ

後多羽院清製

今も又あへてあまのあまのあまのあまの
西園寺入道おまをた

非代よりあまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまのあまの

予は海客の心は世にのこるる心は世にのこるる

山野家(百首)沖舟の事物行時

後鳥羽院沖製

浦風小意とむす人細人の妻は世にやんをくぬ

名不百首寄りてありし時

後鳥羽院

伊勢の海客の心は世にのこるる心は世にのこるる

正社百首寄りてありし時

皇太后家孝文后

伊勢の海客の心は世にのこるる心は世にのこるる

赤井門内百首寄り合ふを世にのこるる

野長明

伊勢の海客の心は世にのこるる心は世にのこるる

十首歌名目朝露 後鳥羽院沖製

壇の海の浦のひるは世にのこるる心は世にのこるる

赤井院小室

浦人の海客の心は世にのこるる心は世にのこるる

光明寺寄りてありし時

伊勢の海客の心は世にのこるる心は世にのこるる

伊勢の海客の心は世にのこるる心は世にのこるる

家隆の御事をもまゝにいづりけり

海をこを 北原光俊御事

探娘のときも風はぬき 妻は神よりまはれし

百首はあまのゆきに

お内大臣

あしく神の漢のうら風もまはれし 信のうら風もあ

六首歌合はふはらま

順徳院御製

歌ははのほすれしわらひのうらまはれし 海に流る

前大臣御事

難はれ入はるるは又始をゆもはらふすし

題はら

後大臣御事

あふらし朝もれははらふ 再はらふははらふ

子百首御事 後大臣御事

この國のまはりのまはれ朝もけ 妻ははらふ

きふら

民部卿御事

妻ははらふのまはれはらふらあまのまはらふ

建保四年内裏十首御事

後大臣御事

あふらあまのまはらふははらふ

えんえん仙洞めて待飲合けりけりふも
醍醐入道おきぬき

まじりのゆきれきやあめくもまじり平とあまめん
成實うつ捕めてあ合しけりるふけし

源家右衛門

あつ川をらうりてあまめくもまじり平とあまめん

題しん

後鳥羽院

あまめくもまじり平とあまめん

梅花と

藤原元美

あまめくもまじり平とあまめん

神のふゆの梅のまじり平とあまめん

西行法師

あまめくもまじり平とあまめん

梅花と

藤原信輔

あまめくもまじり平とあまめん

百首の奇人にてあまめん

院判制衣

あまめくもまじり平とあまめん

柳と

後鳥羽院判制衣

あまめくもまじり平とあまめん

春柳此系よりさびしう知るはくさくあるもの月日せり

胡弓より人のまねをてしこゝろはく風ありや

春柳此系よりさびしう知るはくさくあるもの月日せり

胡弓より人のまねをてしこゝろはく風ありや

春柳此系よりさびしう知るはくさくあるもの月日せり

胡弓より人のまねをてしこゝろはく風ありや

柳をよめ歌

春柳此系より

胡弓より人のまねをてしこゝろはく風ありや

春柳此系より

胡弓より人のまねをてしこゝろはく風ありや

雲葉和詩集巻第二

春歌中 花部

百首寄りてゆつり一時

式子内親王

花部

歌志

春柳此系より

胡弓より人のまねをてしこゝろはく風ありや

春柳此系より

胡弓より人のまねをてしこゝろはく風ありや

春柳此系より

一と成 皇太后御宇 皇太后御宇 皇太后御宇

と成りて 皇太后御宇 皇太后御宇 皇太后御宇

二月 郷

見たりと 皇太后御宇 皇太后御宇 皇太后御宇

歌一と成 様平人丸

喜ぶと 皇太后御宇 皇太后御宇 皇太后御宇

日吉社へ 五十を所寄 奉納の時

皇太后御宇 皇太后御宇 皇太后御宇

皇太后御宇 皇太后御宇 皇太后御宇

十首 寄合 侍久 不深 山花と

皇太后御宇 皇太后御宇 皇太后御宇

皇太后御宇 皇太后御宇 皇太后御宇

皇太后御宇 皇太后御宇 皇太后御宇

野字 左大臣

皇太后御宇 皇太后御宇 皇太后御宇

石清水 寄合と成と 按察使 兼宗

皇太后御宇 皇太后御宇 皇太后御宇

洞院 掾政 寄合 皇太后御宇

後二位 皇太后御宇

皇太后御宇 皇太后御宇 皇太后御宇

百首奇なるて大徳寺へきてしるし時
慈法和尚

くればまゝいそと
西行法師

かゝるぬ中を此の道の花のまゝしるし
名新屯子 兼中納言定家

日ごとく玉の光をこれ橋をまき光もくやと地を
清原深業

笑ふ方のまゝいそと
大徳寺の百首奇なるて

大徳寺の百首奇なるて

慈法和尚

白きや花よりくまの光をこれ橋をまき光もくやと地を

後二位深澄

まゝの橋をまき光をこれ橋をまき光もくやと地を

後多聞院寺制家

あはれいふまゝにいふはれを極くよきにとふまゝに
歌をうたふす 持平人丸

夕やふあふれ月つくれ月歌のいそや花のよきま
又社百首あはれ中へ

伊弉册命を人後歌

いそくつあふれあふれ花よきまを極くよきま
百首あはれ中へ

後原極持政を人後歌

あはれいふまゝにいふはれを極くよきにとふまゝに
同院極持政百首あはれ中へ

藤原光後朝臣

月あはれあふれあふれ花よきまを極くよきま
歌をうたふす 恭深を人後

あはれいふまゝにいふはれを極くよきにとふまゝに
山端のあはれ月の入るを極くよきま

後原羽院帝制歌

あはれいふまゝにいふはれを極くよきにとふまゝに
花月百首歌よ 後原極持政を人後

あはれいふまゝにいふはれを極くよきにとふまゝに
あはれいふまゝにいふはれを極くよきにとふまゝに
百首歌をうたふす 式子月歌を

そは書も氣をほひれきわくそはつゆふまはれぬか
花の香とてふあふ浄念法師
そは書ふはくさくぬ嵐のそ花くつものくたの候
はふはあはれまゝいよみゆるまふ

あはれ法師

ちこ又あけまわさういふさうきにさうい候

藤原光俊

藤原光俊

様のみさうあま〜さうあまのいふは候きさの
百首あそそよるし時

素後法師

まゆりいふさういふさうのいふは候きさの
すい〜候 順徳院御製
様とれと〜すあふあはれ候との〜さ

素後法師

さうはあの人ひ候いよりさういふは候きさの
後念法師

さうとあはれあふさういふは候きさの
道師は親王家あふさういふは候きさの

後二位家隆

心様あふさういふは候きさの

百首等まのりしと也

光明寺入る米改たふ

山風の妻は名もはたしとてあつとて地元のまを

山寺にすまきる傍のちと花とてまてよる

藤原清輔朝臣

ふとくさるる妻はこころの葉のちとわてまを

歌まをす 平兼盛

まをさるる妻はこころの葉のちとわてまを

山花といふ事と藤原伊長朝臣

まをさるる妻はこころの葉のちとわてまを

まをさるる妻はこころの葉のちとわてまを

まをさるる妻はこころの葉のちとわてまを

花月百首等まをす

兼中納言定家

まをさるる妻はこころの葉のちとわてまを

まをさるる妻はこころの葉のちとわてまを

まをさるる妻はこころの葉のちとわてまを

まをさるる妻はこころの葉のちとわてまを

源俊賴朝臣

まをさるる妻はこころの葉のちとわてまを

家へ百首歌を付し

洞院掾政左大臣

たよめ此夜の神やありんかたふらふと云はれ白き

ふみ百首寄合よ 皇太后宮太后御後

白州小ゆりもてかたり柳葉よ横笛をうたはれよ

五十首歌なりしに花下送日とて事と

三内

花にも秋日影とてはなをそよあつ人の我と云ふ

釋阿久千等和寄おとせとこれの道ける時

力厚用し 大義つる家

幸ふとて惜あふれ心さへはなれや花はあつ

あつたくと 民部卿成範

古所の都にむしれとあつて黄よれ人の心と

影志つて 寂念法師

まよとてまよとてさけの心とて心とて何と云ふ

植屯待客とてとて源守長朝臣

福一極て程有つたに道とてこれの思ひんもつたれ

まよとて 正二位伊忠

まよとてまよとてまよとてまよとてまよとて

西行法師

おもしろくもあらうやうにおかしくもあらうやうに深くとくをあら

後帝極授政事十首歌合十朝屯

兼中納言宣家

世のほひれものゝまゝに心様けをわびしれ普の面影

朝見屯よりよとと 足ん昭法師

まはらうも知らざる地指しし祿の朝屯の花もまふ月を

妻夕死を 後二位家隆

よりのくのれおりのもす物と夕言あそび花のよ

春は哥の中に 正二位忠盛

まはらうおりのゝおりの 九重花をゆきし庭の屯は百隆

花月百首哥人にてはよをもりまげり時

後帝極授政事大臣

まららたのくは様替はる妻よのまはらうの

兼中納言

花月あつちのむねをいへいへいへいへいへいへいへ

兼中納言

道なる風のむらふ園すてらふとあつちとと

百首哥は申す 式部内親王

花月もはらうの春にまらる花のつらう

深山様より事と 源俊賴朝臣

風をよみしるはむしつらむとや花は美哉と

とくくくくくく 雅成親王

よと人かほるはれをよみて是より世は世の世

よみ子院教令子 藤原興風

たのよ新ぬ花のゆも人よはぬぬきけりきりなき

花のゆもくく 紀世

様を世の時もわくたのよきけり心ちるやきぬ

まの寄りて 俊頼親王

らあふ風やくと恨きけりきりわたりあふ

歌志る 藤原清頼

か國のよ梅とけくよはりよき花の下にけりて

花の雨歎の中 白川院御製

孝のよあふ梅と我よのわたりよきけり

藤原院のたけり

藤原基俊

人志るはわらけり心ちるよめりよきけり

歌志る 柿本人丸

日はてしなきもあふ梅とよ風のよきけり

伊勢

よつためふはれぬよき風のけりよきけり

子五百首歌をく 兼中納言定家

梅のまはりのうらみはあまのこを思はく少くわらわすはあまの

中治少ていふ歌と大納言経信

白き花をくくくこの心さくあくるはあまのこを思はく

建保四年内裏十首歌合

後二位家隆

くろぬくうらむこよ梅のまをさうらひゆくあまのこを

僧正行意

よしのこを思はくあまのこを思はくあまのこを思はく

後之我を政子

きぬのこを思はくあまのこを思はくあまのこを思はく

きぬのこを思はく 兼中納言信成

くものまはりのうらみはあまのこを思はく少くわらわすはあまの

後直法師

あまのこを思はくあまのこを思はくあまのこを思はく

百首歌合 兼中納言信成

あまのこを思はくあまのこを思はくあまのこを思はく

建保四年内裏十首歌合

後之我を政子

あまのこを思はくあまのこを思はくあまのこを思はく

建保四年日蓮上人言令子胡后苑を

とわく又くすくたの心教もほし様よとるゆふれ風

藤原康光

胡のつゆれもたらけりて花はをばよふれかた

題しつ

法橋教昭

是くもゆふれはよふ吹こめて風も花とけり

百首寄れ中ふ

前内大臣

岩はこころはのきもけふ風のけたる布衣の院

妻は花のふと

後鳥羽院御製

花とそふもこころあはけは様よとく志はれは

後法性寺入道お平白家百首は寄れ

後徳大寺大臣

花のまをこころあはけの客よりけりすは

花のまをこころ

後徳法師

様よとるゆふれはの客よりけりすは川原

建保四年日蓮上人に海邊様を

正二位兼方

未だおあこころの花とくよの道徳とて風さく

魚のふと

藤原朝臣

よは川原のふとよふとよふとよの客よりけり

山花と 津守國平

山花の花はさきとて今も花の心はさきとて
さきとて今も花の心はさきとて

花の心はさきとて今も花の心はさきとて

山花の心はさきとて今も花の心はさきとて

花の心はさきとて今も花の心はさきとて

さきとて今も花の心はさきとて

花の心はさきとて今も花の心はさきとて

さきとて今も花の心はさきとて

花の心はさきとて今も花の心はさきとて

さきとて今も花の心はさきとて

花の心はさきとて今も花の心はさきとて

さきとて今も花の心はさきとて

源俊頼の

花の心はさきとて今も花の心はさきとて

さきとて今も花の心はさきとて

花の心はさきとて今も花の心はさきとて

平定文

花の心はさきとて今も花の心はさきとて

崇徳院御時百首歌集

皇太后御宇 後醍醐天皇

様におのりあはれおぼせしむるに
皇太后御宇の御宇に
皇太后御宇の御宇に
皇太后御宇の御宇に

皇太后御宇の御宇に
皇太后御宇の御宇に
皇太后御宇の御宇に
皇太后御宇の御宇に

皇太后御宇 後醍醐天皇

皇太后御宇の御宇に
皇太后御宇の御宇に
皇太后御宇の御宇に
皇太后御宇の御宇に

皇太后御宇 後醍醐天皇

皇太后御宇 後醍醐天皇

皇太后御宇 後醍醐天皇

皇太后御宇の御宇に
皇太后御宇の御宇に
皇太后御宇の御宇に
皇太后御宇の御宇に

皇太后御宇 後醍醐天皇

皇太后御宇の御宇に
皇太后御宇の御宇に
皇太后御宇の御宇に
皇太后御宇の御宇に

皇太后御宇 後醍醐天皇

皇太后御宇の御宇に
皇太后御宇の御宇に
皇太后御宇の御宇に
皇太后御宇の御宇に

皇太后御宇 後醍醐天皇

皇太后御宇の御宇に
皇太后御宇の御宇に
皇太后御宇の御宇に
皇太后御宇の御宇に

歌志の序

高原の継嗣長

よのつらき... 伏見もて花とて中勢

様とれらうの... 千五百番舞合

春風お志... 花のうめあ

高原季宗嗣長

原山本れ志... 花のうめあ

法性寺入道景園白

そぞろ風... 洞院攝政家百首歌

藤原門院少将

あふ... 花のうめあ

[Faint, mostly illegible handwritten text]

雲葉和歌集卷之三

春寄下

家百首寄合りし春曙

[Faint handwritten text] 後系極極政大臣

ふぬし海しおのしはるあふさう昔にうすむまはれぬの

[Faint handwritten text] 兼頼和尙

思ひおしむるしはるあふさう海にうすむまはれぬの

名百首寄合りし春曙

順徳院御製

まはれぬのたしこの陸やれあふさうのたしめをそ春の海寄

百首神歌の中に

秋月よもよみあけの國のこころは春のまはれあそび

野々原

三條院神歌

みづのたふすあや青よりとぬふのこころくまゆえ

十首并合一節に初鹿を

後二位家隆

春風の御月よもみあそびもあそびのこころも

名所百首歌より一節に

僧正行意

あつゆは海なるひんがしつらむとよむのまはれあそび

都

山色未人

ふゆの月のこころはあそびのまはれあそび

紀貫之

浦のよもみあそびのまはれあそび

百首并合一節に

後多岐守政能

春のよもみあそびのまはれあそび

春の野々原

春性法師

まはれあそびのまはれあそび

寛平十一年時辰子歌合

紀文則

春毎はさうしきもみまわくふの人の縁とてそとん

水多敷めて南に寄り付けく春毎

源長朝臣

善由に好侍のあり海とねと前出る者あり深く知り

後高松栲飯家百首并合し

宗達法師

くねとていき事さしわのさるく縁とつる秋は橋原

春雨さつちとと後二位家隆

たさもたさといふのちちこめて同一夜に善由さうね

百首并し中は 後高松栲飯家百首

あともさしやうね文書ふとて秋ねの春毎さう

家ねちりり秋は秋書と

道助法師

むとくさるわねさるし善由にゆもさる記書の

百首并し中は

藤原光俊朝臣

ゆきつり秋とむねはさるし秋とつるねとさるし秋

百首并し中は

後高松栲飯家

あはれの人をいへば〜

百を寄すをきりし時

二位家隆

かみを新うぬり給ふも

前内大臣兼右大臣兼左大臣

藤原信實朝臣

あけて〜ぬらぬれと〜

海守とよあけ

あはれを我たるを〜

百首寄すを〜

兼良和尙

あはれを〜ぬらぬれと〜

兼原伊嗣朝臣

あはれを〜ぬらぬれと〜

兼好朝臣

あはれを〜ぬらぬれと〜

兼原澄祐朝臣

時とぬ川瀬の浪のきき声

兼暹法師

水堂の雲れ〜

源具親細長

まほしきおとどけのつらさのゆゑに
そなたは親王家の御子と
なすべしと

藤原存继

つらさのつらさのつらさのつらさ
つらさのつらさのつらさのつらさ

小侍伝

つらさのつらさのつらさのつらさ
つらさのつらさのつらさのつらさ

白土のつらさのつらさ

つらさのつらさのつらさのつらさ
つらさのつらさのつらさのつらさ

つらさのつらさのつらさのつらさ

大洲門院のつらさ

つらさのつらさのつらさのつらさ
つらさのつらさのつらさのつらさ

つらさのつらさのつらさのつらさ

藤原知資

つらさのつらさのつらさのつらさ
つらさのつらさのつらさのつらさ

つらさのつらさのつらさのつらさ

つらさのつらさのつらさのつらさ
つらさのつらさのつらさのつらさ

つらさのつらさのつらさのつらさ

民部卿のつらさ

つらさのつらさのつらさのつらさ
つらさのつらさのつらさのつらさ

去のくまの 壬生忠見

わてふふりてと物とそにのこみやうん井はた

春秋とて 中務

やうとこれ苑の藝のくろく井もにやまれと海

題一 後 崇徳院御製

まふと春れ花のこしとたのひもてと極みく也

五百とはあは中に 後鳥羽院御製

春面におまは物と極みくこのとらりふのた

百首御歌の中に 順徳院御製

川のそに秋とものこみもたら葉のたるとあふたのた

と守るはよめ歌 待賢門院堀川

ひるそらのとま歌まはふさしすまれのたわつたし

題一 後 山名忠清

まはとままはとにけい我そ好とあつとつ秋はよめ

源重盛

光る記をにもまはとらじけそ入口のまはるん

かきつと 土御門院御製

ま風のたあまはのそよとのまはとそふたつた

藤原隆通御製

あまのたつたふあまふあつたはのまはとあまふたつた

波のしん年波のさだむるよそへあはれ

紀貫之

水たふさくさかきと風かけの浪のうらも波をさくらげ

百首奇人くくたれあはれ時

崇徳院御製

田子浦のさねまのふかき浪のうらも波をさくらげ

藤花とらふこと成

俊直法師

本す糸もよ越てあはるゆら浪のうらも波をさくらげ

百首奇人くくたれあはれ時

西園寺入道前左大臣

雲のさきくはれ雲のたつまはくさうきさうら

ありのねと

菅原長政大臣

雲のさきくはれ雲のたつまはくさうきさうら

源道海

ふさくはれ雲のさきくはれ雲のたつまはくさうきさうら

右大臣定國の軍中歌は屏風

壬生忠孝

ふさくはれ雲のさきくはれ雲のたつまはくさうきさうら

歌まじり

山色赤人

春日一ちりてはるのく行とらにのりて人におてい

あま百番歌合小 慈徳和尚

まうりや道にあらぬ旅のさるる年のあかりけり

按察使兼宗

時をたあんとてはるのく行とらにのりて人におてい

まうりや道にあらぬ旅のさるる年のあかりけり

あま百番歌合小 慈徳和尚

清原元輔

あま百番歌合小 慈徳和尚

左京大夫

あま百番歌合小 慈徳和尚

あま百番歌合小 慈徳和尚

あま百番歌合小 慈徳和尚

あま百番歌合小 慈徳和尚

あま百番歌合小 慈徳和尚

あま百番歌合小 慈徳和尚

あま百番歌合小 慈徳和尚

あま百番歌合小 慈徳和尚

あま百番歌合小 慈徳和尚

あま百番歌合小 慈徳和尚

寛政二年其冬のころ善徳寺に於て
善徳寺と歴覧とつとより一定の事と
して後其善徳寺に於て一々
善徳寺とつとより一々

檀越の御名

百首寄人にてしりける時

後鳥羽院御製

何れも善徳寺の御製にてしりける時
後鳥羽院御製
善徳寺の御製

何れも善徳寺の御製にてしりける時
後鳥羽院御製
善徳寺の御製

檀越の御名

何れも善徳寺の御製にてしりける時
善徳寺の御製

檀越の御名

何れも善徳寺の御製にてしりける時
善徳寺の御製

何れも善徳寺の御製にてしりける時
善徳寺の御製

皇子百首寄合

後京極末孫政略

皇太子御成婚の御慶賀に別あはれ給

前内大臣藤原公季に以上奉る書

中納言定家

あつたての御慶賀の御慶賀に別あはれ給

二位源隆

あつたての御慶賀の御慶賀に別あはれ給

権律師公敏

近江の處に一つは御慶賀の御慶賀に別あはれ給

春二日

二位源隆

あつたての御慶賀の御慶賀に別あはれ給

堀河院百首寄合

中納言國信

あつたての御慶賀の御慶賀に別あはれ給

皇子院寄合

あつたての御慶賀の御慶賀に別あはれ給

あつたての御慶賀

[Faint, mostly illegible handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side]

雲葉和詩集卷第四

夏部

早夏水心歌

院沖製歌

あゝ此多しとてふとてさつとせむらひとくさるる夏草ふ
百首寄なりし時 後京極攝政前太
友とあつたつたは夏門の守 兼の衣のからぬ
前攝政左大臣家百首寄に 瑞早友

民部卿為歌

懐衣切つとも世と立のてふふかしのけらふ風よあり

題しつら歌

前内大臣家

別ての後志の人も新書此日ある花の夢あつて
よもゆくはつともて人のあはれはつらなる

赤深右衛門

心あつれ人のあはれす様うふまはくはるぬ海ふもを海

早友歌

藤原清輔朝臣

清じも夢あつてまはる心あつてあはれなる

四月よ歌

道命法師

春さそはく夢あつてまはる心あつてあはれなる

村之沖時歌

平道盛

嵐れこも心あつてまはる心あつてあはれなる

仁者社へ百首歌

藤原光俊

卯花れこも心あつてまはる心あつてあはれなる

夕見卯花とて

皇太后宮家左大臣俊成

紫あはれこも心あつてまはる心あつてあはれなる

中宗徳院沖時の百首歌

あはれこも心あつてまはる心あつてあはれなる

歌しら次

壬生忠峯

時をよの神楽成らぬわが人の恨らぬ心

家百首歌よみ侍りし

後徳大寺太子

我がさし着に色ぢは時を待たぬわが心

後徳大寺太子

後三位頼政

朝を待つては人よわくはぬわが心

後徳大寺太子

し女よ神つゝ心の夕暮よもわが心

郭二壽とて 後徳大寺太子

時を待つては人よわくはぬわが心

後徳大寺太子

源俊賴朝臣

朝を待つては人よわくはぬわが心

永業四年祐子内親王家御合

弁典侍

時を待つては人よわくはぬわが心

大納言經信

夕暮の神つゝ心の夕暮よもわが心

山崎宗人

雪はふりしそふれとて時を待たぬまのほのぼの
あはれおの秋合ふ人こころのうらみ

及信郎

小春をてはとあふけの時を待たぬまのほのぼの

秋しらす

兼舟法師

こころぬ人のあふけの時を待たぬまのほのぼの

秋しらす

洞院権左大臣

雪はふりしそふれとて時を待たぬまのほのぼの

秋しらす

西の法師

時を待たぬまのほのぼの

十首秋合ふ人こころのうらみ

大津門院少宰相

雪はふりしそふれとて時を待たぬまのほのぼの

秋しらす

源中業

雪はふりしそふれとて時を待たぬまのほのぼの

十首秋合ふ人こころのうらみ

時を待たぬまのほのぼの

十有五年合符りけり 晴部云

順徳院御製

後におりてしむや時を海の中をの月を海らん

題志し次

前掲改たる旨

今とんとたのめわいし一時をのりけりしに

百有五年の中は 慈徳和尙

時をわくつたれおまふお秋たふしひのまのり

同部云とつて一院御製

つたのまのりしと海の時を是やと記をれしとて

を助は親王と記十を哥ふ文部云

民部云る也

と海にふし海をさゆり記をくつて蘇いしとて

此部云へ百有五年御符し小

後を同院御製

為入つてしとて記をたつてめを記するに後を

同官に之首を合せしに群振部云

傍正行意

是海くそを記録しする時をのりしを禁のよを

題し次

後念右大臣

年月やを記するしこの部を記するしとて

水色野草とてそと

藤原秀茂

志久り初志しふ清のの理を先手とびす入世人の友

承久元年内裏歌合水色野草

前大納言伊予

はてしなくあふく夏料の志げはつひわその玉

後二位家隆

本家世阿弥の浪のいそすけあきしあはぬむき歌

建保四年内裏十首歌合

前太政大臣

村由に秋の露の秋玉の程とあまのあつ月色は

あやたて

卜部兼直

あふく初志しふ清のの理を先手とびす入世人の友

題志く次

藤原右位朝臣

さけり神の程とあまのあつ月色のあつ月色は

家百首歌

洞院掾政友大臣

卯花の初志しふ清のの理を先手とびす入世人の友

後法住寺入道兼園白家百首歌

皇太后言々人後殿

ふたりの初志しふ清のの理を先手とびす入世人の友

五月五日の御成敗の事

題しりあや 西行法師

五月五日の御成敗の事

旗五月五日 賀茂種平

五月五日の御成敗の事

五月五日の御成敗の事

五月五日の御成敗の事

大貳之位

五月五日の御成敗の事

賀茂種平

五月五日の御成敗の事

賀茂種平

五月五日の御成敗の事

賀茂種平

五月五日の御成敗の事

建保四年内裏十首合小

賀茂種平

五月五日の御成敗の事

賀茂種平

五月五日の御成敗の事

題云くあ 再びは海

梅のけりきりし時をらりわん後よあつひるを
雨申盧橋とらあを

よみ人志ん次

あきくもあたらをれあやふ昔れ人やあはりのえ
身元は親とあやふそそあ

皇太后太后太后

白ひるを立つ子の神のあふあああうた林のあ
五十首神歌の中ん

後多相院神歌

あきくもあたらをれあやふ昔れ人の独あはる

あきくもあたらをれあやふ昔れ人の独あはる
西行法師

あきくもあたらをれあやふ昔れ人の独あはる

西行法師

あきくもあたらをれあやふ昔れ人の独あはる
夕立をいふととて

藤原光俊朝臣

あきくもあたらをれあやふ昔れ人の独あはる

あきくもあたらをれあやふ昔れ人の独あはる
あきくもあたらをれあやふ昔れ人の独あはる

あきくもあたらをれあやふ昔れ人の独あはる

前中納言宣家

かゝるにふくまへてまゝに人のあつてはなれども
いかに照射のちかさを

後二位忠行

かゝるにふくまへてまゝに人のあつてはなれども
いかに照射のちかさを

権修正永縁

かゝるにふくまへてまゝに人のあつてはなれども
いかに照射のちかさを

崇徳院沖製

かゝるにふくまへてまゝに人のあつてはなれども
いかに照射のちかさを

順徳院沖製

かゝるにふくまへてまゝに人のあつてはなれども
いかに照射のちかさを

左衛門法師

かゝるにふくまへてまゝに人のあつてはなれども
いかに照射のちかさを

かゝるにふくまへてまゝに人のあつてはなれども
いかに照射のちかさを

祝部成後

移御舟月をまつらむおはせしむらふにふたの村

そら一ら後 平院付後

川舟のりきほて移しおはせありや園と海に

百首寄しうみゆし

舟道法師下

すこし浦のあまのたぐりのねを大やそ塩橋便成ん

ゆき百首寄しうみゆし

お中細き言書

せらぬの風ふらねるれはるを涼しききわの里

百首歌多てふりし時

式子内親王

此よりとるはのちの事なほほかにいん人なりん

草子本ゆきしむらあけりけふころ

苑の院御製衣

露のり本はくういぬたをさしゆらひの杜のりあふ

お室のころと 寺門院御製衣

くまのしめしきよおはせおふつはさしつる川の水

堀川院御時の百首寄し

お中細き御時

海のしほはさかたにさかたにさかたにさかたに

何月

海はさかたにさかたにさかたにさかたに

友歌とて

菅根好忠

夕陽に海はさかたにさかたにさかたに

河原とて

授大僧都實休

菅原のさかたにさかたにさかたに

五十首并て

宗蓮法師

海はさかたにさかたにさかたに

菅原とて

明教法師

かにさかたにさかたにさかたに

百首并て

小侍候

海はさかたにさかたにさかたに

歌とて

菅原を詠ふ

梅子のさかたにさかたにさかたに

歌とて

正三位季純

菅原のさかたにさかたにさかたに

歌とて

後系極務政前上段在

作標の羽よとく露不秋ひてさけ涼はと夕言はる

そらーらと 後通法師

山表もさくさあぬ夕附日さゆさくの標の涼を

樹陰似秋とさくと 前中納言通房

夏ふれ木下風の涼さふ思ひあつて露や降り

歎しあふか 宗道法師

あつて月と秋さる浪はうは海さ涼おわりの涼を

月前逐涼とら中事と

源俊頼朝臣

志ろふさぬあ葉にの月月の秋をあらまてふ更ぬし

百首寄くくはよをふるし時

院御製

夏れも秋を涼さく言はぬのいほくも秋やうと

松下納言を 前中納言通光

さぬ秋とさひさつぬ涼さつらも常盤の松下風

後系極務政前上段在 符彦合侍うらふあき

涼自秋とさくさ

大藏卿有兼

こぬ秋のつ言つそるあはすうらぬの井の水

題しらす

律蓮法師

山陰のいづれもみれつるを秋とて
いづれあはれつるを三條大寺とて
夏は口とてすつるの涼をいふ
又社百首并中より

皇太后宮女左衛門

夏は口とてすつるの涼をいふ
又社百首并中より
百首并中より 式子内親王

月はきも秋とてすつるの涼をいふ
後京極権政右大臣

多きとて多にゆると志のき
建仁元年影法師の時
藤原の藤とてすつるの涼をいふ

建仁元年影法師の時
藤原の藤とてすつるの涼をいふ
建保四年内室の十首并中より

前大納言経通

たつとせらるゆい信の
題しらす
藤原為继朝臣

大かしのなみか
安藝

流きとて秋をいふ
水あはれつるに秋やらる

六月秋のうらと 経部成茂

まじり秋の木の陰にそよ風の秋のうらと

百首所歌の中に 後多相院所製

みよ川約ふそや物あはれ露あふる麻のつと

土所門院所製

まじりす秋の物あはれをそよ風のうらと

かひく川風

雲葉和綺集卷第五

秋哥上

初秋のうらと 大納言経信

お月もれ風の涼に秋のうらと昔あはれ秋の神を

百首歌をりし時 後多相院所製

お月もれ風の涼に秋のうらと昔あはれ秋の神を

又百首所歌の中に

後多相院所製

お月もれ風の涼に秋のうらと昔あはれ秋の神を

あはれ秋のうらと

定石秋夜更後歌

後夜より秋やきりしめりていとおのり也すまれば浪風

水を渡りて秋を首歌つゝふりつゝに

お中納言之旨歌

藻塩橋あはれとや此をくはうゝみそを秋の物

百首歌之中一

後系秋橋政茶政を長

袖ふけの秋の上葉は朝露不滅さつと秋の物風

慈秋和歌

海より吹く神も露らりてより一人の秋を神を

穉多のさうと 院津製

たう袖ふけの秋のけしきをけりてさうと露風を

百首津歌 順徳院津製

浪あきたりふきさる露もけり水の思はれ秋の物風

ふき百首津歌 五月

軒と見松の梢ふきつきて袖ふけら思ぬ秋の神を

後鳥羽院津製

花田娘風のさうともおきたるの秋やさあんとて人の松

小野宮 百首津歌を納付し

秋風やは秋の原ふまゝにさあんとてくさるる

五十首寄ゆゑより時

前大納言右大臣

夕暮の光をみれば秋の光をみれば秋の光を

ふも百首歌合

赤陽門院越前

かきつばたのさきさきとて秋の光をみれば秋の光を

題名

ふも百首

天川あつてもなれ秋をふもしとて秋の光をみれば秋の光を

七夕れとてふもしとて秋の光をみれば秋の光を

お園白左大臣

たふらぬ海をゆびさふ玉の光をみれば秋の光を

院部成仲

織女の姿をみれば秋の光をみれば秋の光を

百首歌合中 七首門院沙都

とて海原の光をみれば秋の光をみれば秋の光を

七夕の光をみれば秋の光を

洞院栲政左大臣

とて海原の光をみれば秋の光をみれば秋の光を

八十首歌合

赤陽門院成仲

梅の心枕をみゆつ夕とらきしをれきほり又平をたえ
ふ子百番歌合ふ前大納言忠良

竹の葉にあき川系や嫩女はつあふれはるるん

題不知

因嘉法師

嫩女も秋さじけはあつるん整をせじつふはしを

堀川右大臣

きれはつれあ守廟の習たりとをにをたる天の川風

七夕はるるを

平重時朝臣

まはるる水の流してきつる神あつるん

山野ふみ寄合年物秋曉と

急務和尙

嫩女もつるの露おせはるるをあそまはるる川あ

影しるるん

源俊朝朝臣

たふつれつる袂のそふにさるる川流あらやまん

西行法師

あまのついでをこれ別の海といふるるわあつるん

康賢主母

きくもをねまふあつる嫩女もよまはるる天の

八日のあつるあつるあつる七夕はるるん

のころらば

藤原義孝

ついでに秋の風を詠ふ

建保三年丙寅秋十月廿一日

鎌倉右大臣

日くはあつた雲の影をのぞくも秋の風

鎌倉右大臣

とりの海くさりのぬりてのさく山陰の秋の風

柿本人丸

春の風のあつた雲の影をのぞくも秋の風

野苑隠居

大納言経信

白露のふりて秋の風を詠ふ

正侍忠崇

秋の風のあつた雲の影をのぞくも秋の風

光明寺入道兼家

まづの秋の風を詠ふ

柿本人丸

手にては秋の風を詠ふ

信成野の秋の風を詠ふ

信成

海の風のあつた雲の影をのぞくも秋の風

秋尋

左京大夫源輔

あぢぢひらむとふけし女は心もろくぬ風ふりて

女郎花

中務卿具平親王

夕暮にあふふもろくもろく一我よりけり露やけり

夕

皇快法親王

秋の田はろふけたる女は心もろくや種と地ふ

藤原基経

なまふくしむすけし白露のらるやあたりの別る

清原深妻女

あすは風ふるひもろく我よりけり

上野門院兵衛

まふくしむすけし花すけもろくや海行く

殿高の院大輔

あふくしむすけしあふくしむすけしあふくしむすけし

雲野草

あふくしむすけしあふくしむすけしあふくしむすけし

百首

あふくしむすけしあふくしむすけしあふくしむすけし

右

源

昔すゝく人の海や露のこころらゝの秋の花園

秋のくまはばきとて

伊勢

雲も霞もあな秋のこころらゝの秋の花園

秋のくまをさうあつめて人のこころらゝ

て今日さつしとてあつめてさうあつめて

中務の長平親王

手ぬき花のこころらゝの秋のこころらゝ

野花と 紀貫之

花も海もあな秋のこころらゝの秋の花園

秋の房れと海と藤原資隆朝臣

物もあな秋のこころらゝの秋のこころらゝ

歌一りて 曾祿好忠

と秋の房れと海と藤原資隆朝臣

柳平人内

物もあな秋のこころらゝの秋のこころらゝ

秋の房れと 紀貫之

物もあな秋のこころらゝの秋のこころらゝ

子又百葉由新公家 後京極権政前政大臣

物もあな秋のこころらゝの秋のこころらゝ

百首秋人へけりけり

後鳥羽院御製

御座れを御座のふり秋風ふよのまらふとて

百首歌中に 和泉式部

らと金持のゆるあつて見やせくゆもれ宿のまら

五十首の由たてりり

兼善法師

等つるもあはるも心をよぬ人たの心秋風の

秋風とてりり 源家信

とて秋のまらひの秋とてりりやるは秋風

秋十首歌なりし時

海邊の居れ海とてりりてあり秋風とてり

秋とてりり 菅原良

打むそとてりり居れ秋風とてりりてりり

名不歌なりしに 源具親朝臣

あつてりり居れ秋風とてりり居れ秋風

居の歌なりしに 菅原良

秋風とてりり居れ秋風とてりり居れ秋風

秋とてりり 鎌倉右大臣

居合とてりり居れ秋風の松山

暮心る

院

玉葉の

あはれ

秋の

平

と

唐

梅

西

お

あ

後

あ

あ

源

此

題

夕

十

土御門院小宰相

御子あり奉りてやまの社風の若にそはる麻もはる也
海色無といふこと成

後を相院津敷

清海もあはれ下らんやとそはるあつとそはる風

後二位家隆

梳とたそ風くそはらあつとそはる風

後宿のいふこと成

源俊親朝臣

くふもよまはれ梳とむすこと成はる麻もはるといふ

安嘉つ院甲斐

海もあつとそはるいふこと成の若に奉りてはる

康資の王母

色に若て秋も麻もはるいふこと成の若に奉りてはる

まほ四年田裏もして六首もあつとそはる

世のりけりてはる胡野鹿

後二位範宗

後二位範宗

胡もあつとそはるいふこと成の若に奉りてはる

後大納言通成

後大納言通成

秋涼く成りよらんごとく此入野の事もさう極まり
百首秋人そんせりし時

後名羽院清製

秋ふあひのへの手控のゆきの事せりあきそりく極楽
の事

建保三年日蓮宗令り

藤原信光卿作

秋のせれおるふらん心無れまひもさや書と忘りし心
百首秋人そんせりし時

藤原隆信卿作

ふれよ秋人のことこれよりて秋の意とをいそりし心

悲き心

刑部卿秋福

後より秋の意やまはるる心おりにとる心無れまひも

藤原清通卿作

思ふと秋らぬもの無れまひもさやあつらふ心無れまひも

百首秋人そんせりし時

光明寺主人お作

春日野に春の無れまひもさやけい秋も秋の意よけりし心

百首秋人そんせりし時

藤原隆信卿

うめりけきさるる心よ秋も秋の意よけりし心

十首ありてしる

順徳院御製

多岐のこころは花や散らばるるをば

赤陽門院御製

常盤の山は秋の赤くもてはるる言も

建暦二年 内裏御歌合より 水御歌夕

後久我王政大臣

あなれふのけふは花や散らばるるをば

十首御歌合侍より 菅原山麻呂

院御製

常盤のこころは花や散らばるるをば

右大臣 教定

又常盤のこころは花や散らばるるをば

歌合より 前中納言 雅兼

秋のこころは花や散らばるるをば

源兼房より

源兼隆

山梨のこころは花や散らばるるをば

十首御歌合侍より 源兼房

後二位 兼隆

天は何秋の二秋の契ふらん
お捨政丸は長家百首歌へ
田家集を

右近中将経家

かしの庭も露もくさるる
空仁法師

空仁法師

晴るるぬきよしの夕霧
建武二年仙洞行奇令行
に山仲

建武二年仙洞行奇令行
に山仲

秋興を

寺河内院小宰相

あまのうらふのふれ夕霧
壬午の忠孝

壬午の忠孝

あまのうらふのふれ夕霧
前内大臣泰十首歌へ
秋跡霧

前内大臣泰十首歌へ
秋跡霧

西二位知家

秋心のまもりは
後三位行徳

後三位行徳

あまのうらふのふれ夕霧
百首歌の中は
後多岐掾政家
政家大臣

百首歌の中は
後多岐掾政家
政家大臣

山嵐やあまのうらふ夕霧
政子十首歌へ
道助法親王

政子十首歌へ
道助法親王

道助法親王

橘姫のやりよの月も花も花も花も
嘉儀雅經

あまのつらき心も
崇徳院院時百首

藤原清輔卿

あまのつらき心も
百首

あまのつらき心も
後系極孫政常

あまのつらき心も
から人のそく

二條院院時

あまのつらき心も
十首

順徳院院時

あまのつらき心も
前大納言

あまのつらき心も
秋

あまのつらき心も
百首

卷五十二上

於西院抄

如くある蘇の竹のそびた葉も於西院抄に於て

秋野抄中

前圖白

とてなる一葉葉の葉を



羣書類從卷第百五十二上

